

## ビグアナイド系糖尿病薬とヨード系造影剤の

### 合併使用に関する、当院の対応について

ビグアナイド系糖尿病薬の服用中に、ヨード系造影剤を使用したCT造影検査を実施する場合は、乳酸アシドーシスをきたすことがあるため注意が必要とされています。

(造影剤添付文書より)

当院では、この場合、ビグアナイド系糖尿病薬の服薬を一定期間制限する対応をとっております。(下記参照)。ご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。

#### 記

[ビグアナイド系糖尿病薬]を服用している患者様に対してヨード系造影剤を使用する際は、原則的に次の期間は[ビグアナイド系糖尿病薬]の服薬を中止しております。

#### ヨード系造影剤を使用した検査の前後2日間(検査日を含めて5日間)

ヨード系造影剤を使用する検査：CT造影、尿路造影、血管造影(頭腹部、心臓)など

#### <併用が禁忌の理由>

ビグアナイド系糖尿病薬とヨード造影剤は、併用により乳酸アシドーシスをきたすことがあるため注意が必要とされています。原因は、ヨード造影剤の投与により一過性の腎機能低下をきたす可能性があり、その結果、ビグアナイド系糖尿病薬の腎排泄が減少し血中濃度が上昇するためと考えられています。これによって悪心、嘔吐、腹痛、下痢等や倦怠感、筋肉痛、過呼吸等が発生する恐れがあります。

(死亡例の報告あり)

#### <ビグアナイド系糖尿病薬の一例>

ネルビス錠、グルコラン錠、メルビン錠、メデット錠、メトリオン錠、メトグルコ錠、塩酸ブホルミン錠(ミタ)、ジベトスB錠、ジベトンS錠、メタクト錠 等

ご質問等ございましたら、お気軽に地域連携室までご連絡ください。

社会福祉法人仁生社 江戸川病院

地域連携室 TEL : 0120-518120 (フリーダイヤル)

2018.12月